

## 【開催報告】 インドネシア・マレーシアから見た企業メセナ 東京フォーラム「芸術・文化を振興する企業理念とは —インドネシア・マレーシア企業における展開に向けて」

### 【フォーラム概要】

公益社団法人企業メセナ協議会(理事長:尾崎元規)は、ASEAN 諸国との連携を継続的に深める中、東京フォーラム「芸術・文化を振興する企業理念とは—インドネシア・マレーシア企業における展開に向けて」を2017年1月26日、電通ホールにて開催しました。

インドネシアとマレーシアから芸術・文化振興および文化による社会創造にかかわるキーパーソン5名を招聘。企業のメセナ担当者、芸術・文化団体、研究者ら約50名が集まり、これからさまざまなパートナーシップが求められる ASEAN 各国の文化環境を知るとともに、日本における長年の企業メセナの意義と成果を掘り下げました。企業メセナの今日的な意味が浮かび上がり、各国からの招聘者はこの成果を自国に持ち帰りました。

フォーラム前日には、メセナに取り組む日本企業3社(サントリーホールディングス/サントリーホール、損害保険ジャパン日本興亜/東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館、東燃ゼネラル石油/東燃ゼネラル児童文化賞・音楽賞)を訪問。企業メセナの根底にある理念や社業との接点をヒアリングしました。

### ■フォーラムの様子



### ■登壇者



左から: マルコ・クスマウイジャヤ(創造都市ルジャックセンター ディレクター、インドネシア)  
ティモセウス・レスマナ(インドネシア・フィランソロピー・アソシエーション 創業者/会長、インドネシア)  
リンダ・ホエマー・アビディン(インドネシア芸術連合創立メンバー/執行委員会財務担当、インドネシア)  
アズイミ・ワン・アフマッド(マイ・パフォーミングアーツ・エージェンシー ジェネラル・マネージャー、マレーシア)  
ダンカン・ケイブ(シンク・シティ プログラム・マネージャー/アーバン・ナレッジ、マレーシア)

## 【ポイント】

- インドネシア、マレーシア両国では芸術・文化への支援は活発ではないという。企業のCSRでは教育、医療、貧困撲滅が優先で、芸術・文化分野への支援は少ない。
- 視察・フォーラムを通じ、日本の企業は、芸術・文化振興を通して社会を活性化し、豊かな生活をつくりだすために継続的にメセナを行っていることが明らかになった。
- インドネシア・マレーシア両国においても税制優遇や民間企業とのミーティングを開くなど、中間支援組織設立に向けた取り組みが着実になされている。
- 日本・各国とも、状況の違いはあるが、抱えている課題では共通項も多い。企業メセナ協議会は、引き続きネットワークを築き、企業をはじめ文化振興にかかわる内外機関を結ぶプラットフォームの構築を行い、ナレッジを共有できる機会をつくりだしていきたい。

## 【3つの視点】

### 1. よりよい社会と豊かな生活のために芸術・文化を支える日本企業のメセナに関心が集まる

- ✓ マレーシアのアズミ氏は、「日本企業は芸術のために芸術を支援しているということが驚きであり、喜びだった」と語った。
- ✓ 参加した日本企業からは、「企業がメセナをするのは現代日本の成熟社会でどのようにクオリティオブライフに寄与できるかを考えているからだ。美術館を持つ企業としては、アートに広く親しんでもらい、特に若い世代にすそ野を広げることを目指している」とのコメントがあった。
- ✓ インドネシアのリンダ氏は「人々の暮らしに変革を与えるために芸術・文化支援を行っているという価値観をインドネシアの企業にシェアしたい」と日本のメセナの意義をとらえた。

### 2. 課題は芸術・文化への継続的な支援

- ✓ インドネシアのマルコ氏は、「日本は豊かで多彩な文化や自然で内外の人々を惹きつけているが、これは日本の人々が長い間努力をしてきたから。そのことを自国に伝えていきたい」と発言。
- ✓ マレーシアで都市の課題解決に取り組むシンク・シティのジア・ピン氏は「芸術支援の成果は、来場数が何名あったかというようなことではない。5年先のインパクトを見ること、これが持続可能性につながるのではないか」と語った。

### 3. インドネシア・マレーシアでの中間支援組織の発足に向けて

- ✓ ジア・ピン氏は「マレーシアにも企業メセナ協議会のような中間組織があれば、資金を出す人たちが集まってお互いに話し、芸術・文化支援の波をつくり出せる。少額の資金でもこんなことができると示し、資金を集め、その分配も担えるだろう」と述べた。

[開催報告] インドネシア・マレーシアから見た企業メセナ  
東京フォーラム「芸術・文化を振興する企業理念とは  
—インドネシア・マレーシア企業における展開に向けて—

## ■登壇者プロフィール

### マルコ・クスマウィジャヤ(創造都市ルジャックセンター ディレクター、インドネシア)

建築家兼都市計画家として、持続可能な建築とアーバニズムおよび芸術に重点を置いた活動を継続。2006年から約4年間、ジャカルタ芸術評議会議長を務め、2010年には持続可能性についての思索と活動を促進するルジャック都市研究センターの共同創設者ともなった。2012年、都市・田園の関係性を含めた地域社会や生態学的な課題に取り組むプログラムを開催する場として、ジョグジャカルタ近郊にプミ・ペムダ・ラハユ持続可能性学習センターを設立。

### ティモセウス・レスマナ(インドネシア・フィランソロピー・アソシエーション 創業者/会長、インドネシア)

トリサクティ大学にて法律学位を取得後、インドネシア大学にて法律修士を取得。現在、博士課程で研究を継続。1997年から2004年までシナーマス・グループにて副理事、局長、コーポレーションガバナンス・持続可能戦略部長を務めた。2014年9月にはインドネシア・クリーナー・プロジェクト・センターの専務理事に就任。自身でも会社を経営。環境問題や持続可能戦略、代替紛争解決に長け、防衛省主催のナショナル・リーダーシップ・プログラムに参加。

### リンダ・ホエマー・アビディン(インドネシア芸術連合創立メンバー/執行委員会財務担当、インドネシア)

3歳よりバレエを始め、エリサ・モンテ・ダンスカンパニーの主要ダンサーとして国際ツアーに参加。引退後アート経営修士を取得し、ジャカルタにて舞台芸術マネジメントを教える。1999年、若手アーティスト育成の教育機関や助成を提供するケローラ財団を共同設立。2012年には芸術をもっと多くのコミュニティにと、設備や政策を整えるための知識や情報を集約した全国規模団体、インドネシア芸術連合を共同設立。

### アズミ・ワン・アフマッド(マイ・パフォーミングアーツ・エージェンシー ジェネラル・マネージャー、マレーシア)

ホスピタリティ、ツーリズム、芸術・エンターテインメント産業にて広報・マーケティングに携わり、マイ・パフォーミングアーツ・エージェンシー(MyPAA)ではコミュニケーション・イベント戦略マネージャーを務める。マレーシアの舞台芸術産業における象徴的イベントを主に手掛け、マレーシア国王とともに行うフェンドレイズパーティー「ロイヤル・アーツ・ガラ」や地域舞台芸術会議「ボラック・アーツ・シリーズ」、若手育成を主としている「ボラック・アーツ・ユース・シリーズ」などを行う。歌手としても活動している。

### ダンカン・ケイブ(シンク・シティ プログラム・マネージャー/アーバン・ナレッジ、マレーシア)

コミュニティとともに地域再生に取り組むシンク・シティでプログラム・マネージャーを務める。シンク・シティはマレーシア政府の戦略的投資助成機関であるカザナ・ナショナルが所有。地域自治体や国際機関、コミュニティとともに地域問題を長期的・包括的な解決策提案や効果的なパートナーシップ構築を目指している。アーバン・ナレッジは、シンク・シティのパートナー組織向けの資料館を創設し、研究、出版、様々なプロジェクトを通じ、エビデンスに基づいた解決策を提供している。

## ■公益社団法人企業メセナ協議会 <http://www.mecenat.or.jp/>

芸術・文化振興による社会創造を目的として、企業をはじめ文化に関わる団体が参加、協働する民間の公益法人。創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与すべく、企業メセナの推進を中心に、芸術・文化振興に関する調査・研究、認定・顕彰、交流、助成、発信等の事業を行う。会長：高嶋達佳（[株]電通相談役）、理事長：尾崎元規（花王[株]顧問）。会員171社・団体/27名（2017年2月9日現在）。

### 【本件に関するお問い合わせ先】

公益社団法人企業メセナ協議会 広報担当:坂本・中尾 / 国際会議担当:三田・根津  
TEL: 03-5439-4520 FAX: 03-5439-4521 E-mail: msakamoto@mecenat.or.jp  
〒108-0014 東京都港区芝 5-3-2 アイセ芝ビル 8階 URL: <http://www.mecenat.or.jp/>